

聖籠町の地域幸福度(Well-Being)指標について

- (1) 地域幸福度(Well-Being)指標
- (2) 聖籠町の地域幸福度(Well-Being)指標

【参考】 主観・客観指標の構成因子一覧

【参考】 客観指標の構成因子のうち「〇〇指数」について

令和6年10月
聖籠町総合政策課

(1) 地域幸福度(Well-Being)指標

- ✓ **客観指標**(オープンデータ)・**主観指標**(アンケート調査)により、
市民の「暮らしやすさ」と「幸福度(Well-Being)」を数値化・可視化

※ 国(デジタル庁)において、当該指標の活用促進に関する検討会(R4～継続)が開催され、当該指標の活用がデジ田交付金(デジタル実装タイプType2・3)の採択条件とされていることなど、地方公共団体での利活用が推奨されている。

【地域における幸福度・生活満足度】

10又は5点
満点表示

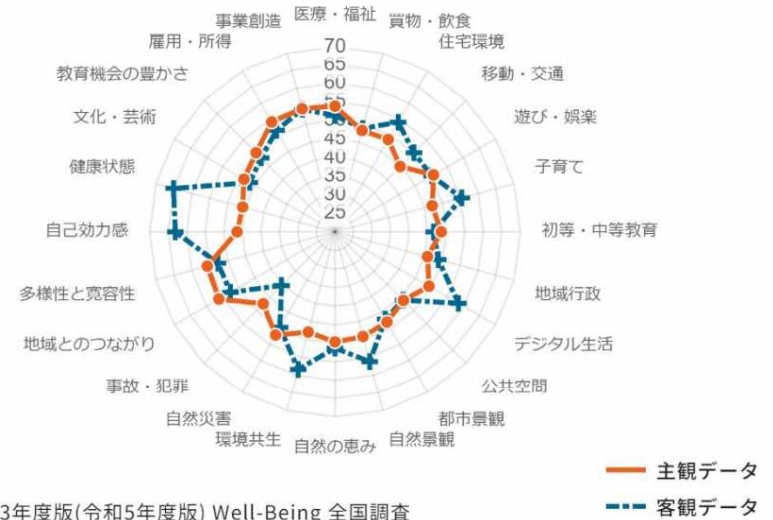
- Q1. 「現在、あなたはどの程度幸せですか？」(地域の幸福)
- Q2. 「あなたの町内(集落)の人々は、大体において、どれくらい幸せだと思いますか？」(地域の幸福)
- Q3. 「自分だけでなく、身近な周りの人も楽しい気持ちでいると思う」(地域の幸福)
- Q4. 「住んでいる地域の暮らしに満足している」(生活満足度)
- 【オプション質問項目】
- Q5. 「今から5年後、あなたはどの程度幸せだと思いますか？」

Q5は、オプション追加質問として、実施は任意です

【まちに関する主観・客観評価】

偏差値表示

カテゴリー別



オレンジ色の線 = 主観評価、緑色の線 = 客観評価

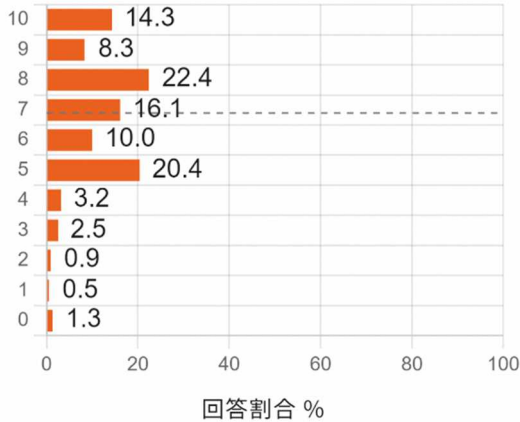
(2) 聖籠町の地域幸福度(Well-Being)指標

【 聖籠町 】 ※ 主観データは令和6年7月に実施した「居住・幸福度等に関するアンケート調査(聖籠町)」の結果によるもの

幸福度(Q1)

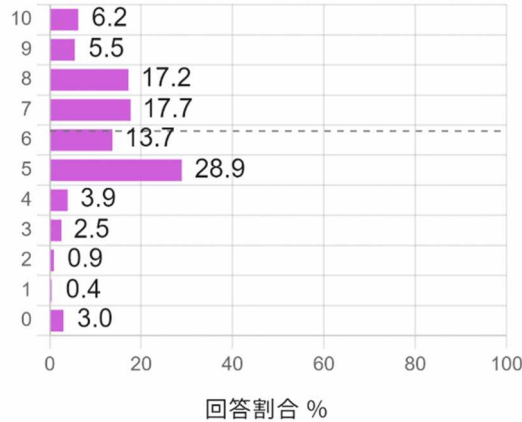
全国平均
6.49

---- 平均値 6.9

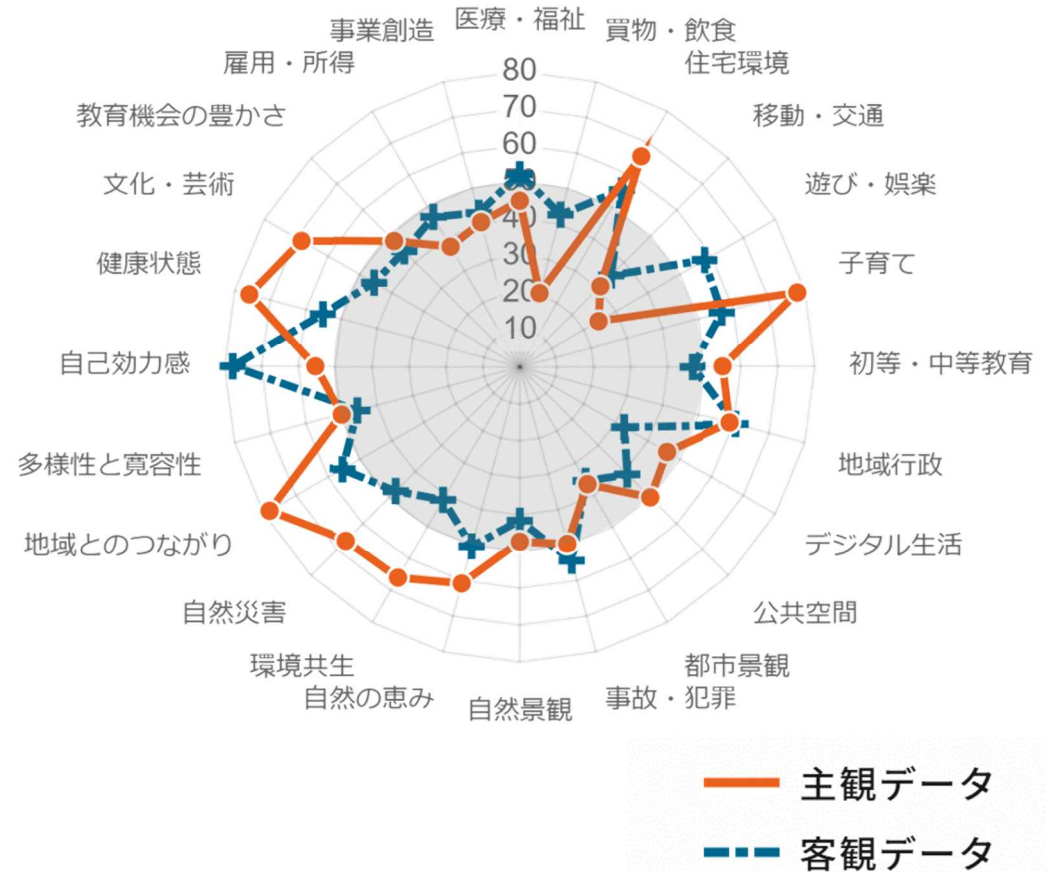


町内の幸福度(Q2)

---- 平均値 6.3

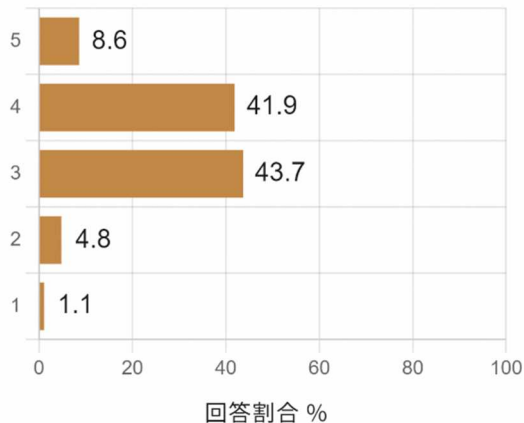


カテゴリー別



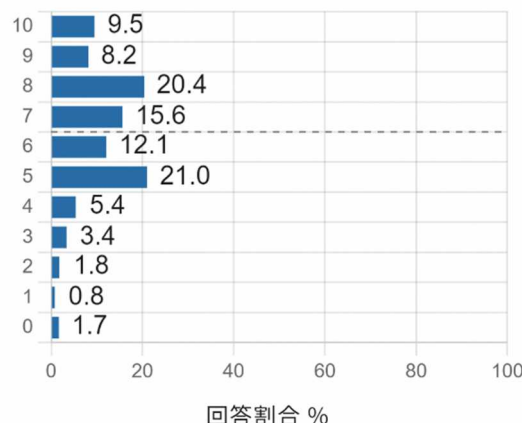
周りも楽しい(Q3)

---- 平均値 3.5



生活満足度(Q4)

---- 平均値 6.5



【出典】 2024年度版(令和6年度版) Well-Being 個別調査

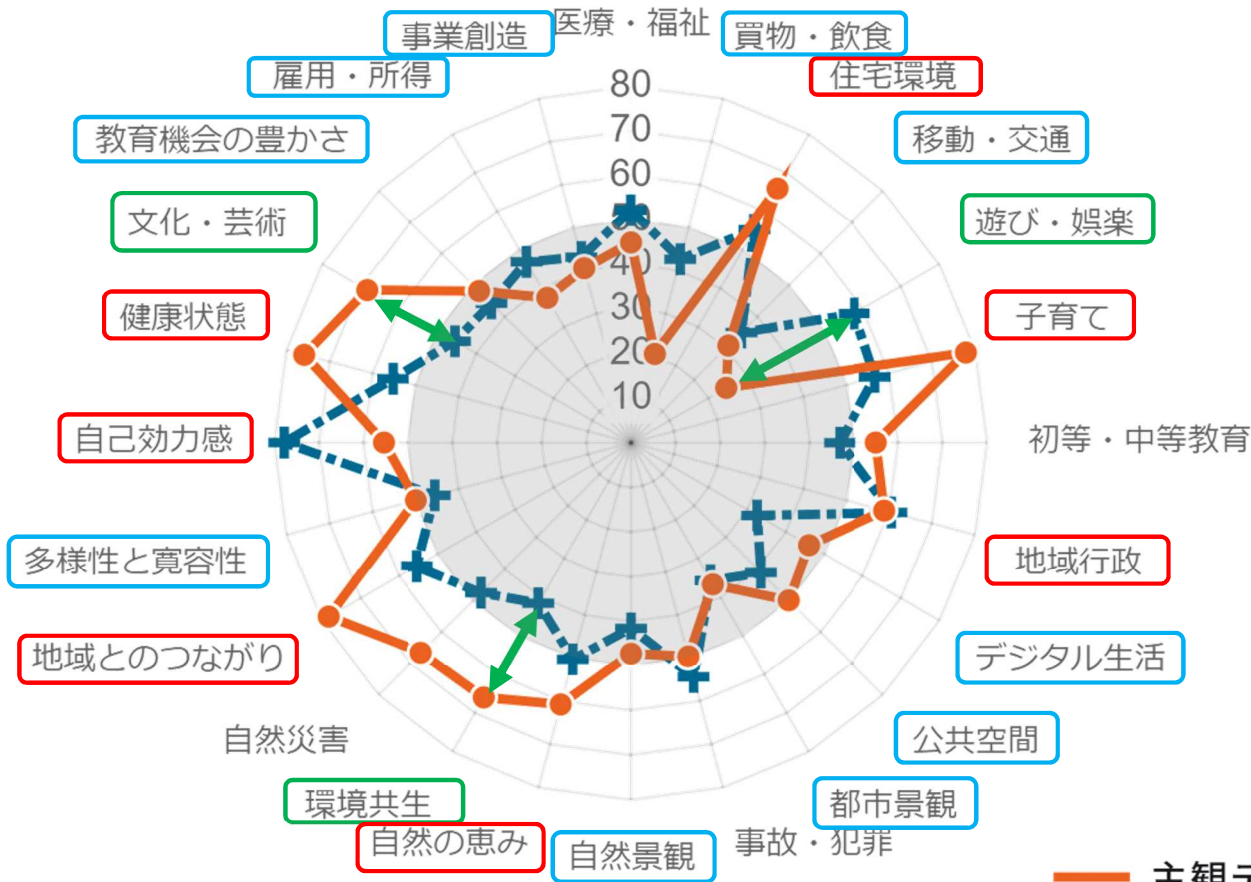
(2) 聖籠町の地域幸福度(Well-Being)指標 【分析】

主観・客観50以上⇒強み特定

主観・客観50以下⇒弱み特定

主観・客観のギャップ大

カテゴリー別



カテゴリ	主観	客観	類型※
医療・福祉	44.9	52.2	
買物・飲食	20.6	42.6	弱み
住宅環境	65.9	55.2	強み
移動・交通	30.8	34.9	弱み
遊び・娯楽	24.6	57.8	ギャップ
子育て	77.9	56.7	強み
初等・中等教育	55.0	46.8	
地域行政	58.9	60.6	強み
デジタル生活	46.0	32.6	弱み
公共空間	49.9	41.1	弱み
都市景観	36.6	35.6	弱み
事故・犯罪	49.6	54.4	
自然景観	47.3	41.6	弱み
自然の恵み	60.8	50.3	強み
環境共生	66.0	41.5	ギャップ
自然災害	66.6	47.5	
地域とのつながり	78.3	55.4	強み
多様性と寛容性	49.9	45.5	弱み
自己効力感	55.4	77.8	強み
健康状態	75.9	55.2	強み
文化・芸術	68.3	45.5	ギャップ
教育機会の豊かさ	48.1	44.2	弱み
雇用・所得	37.5	46.8	弱み
事業創造	40.5	43.1	弱み

※類型について

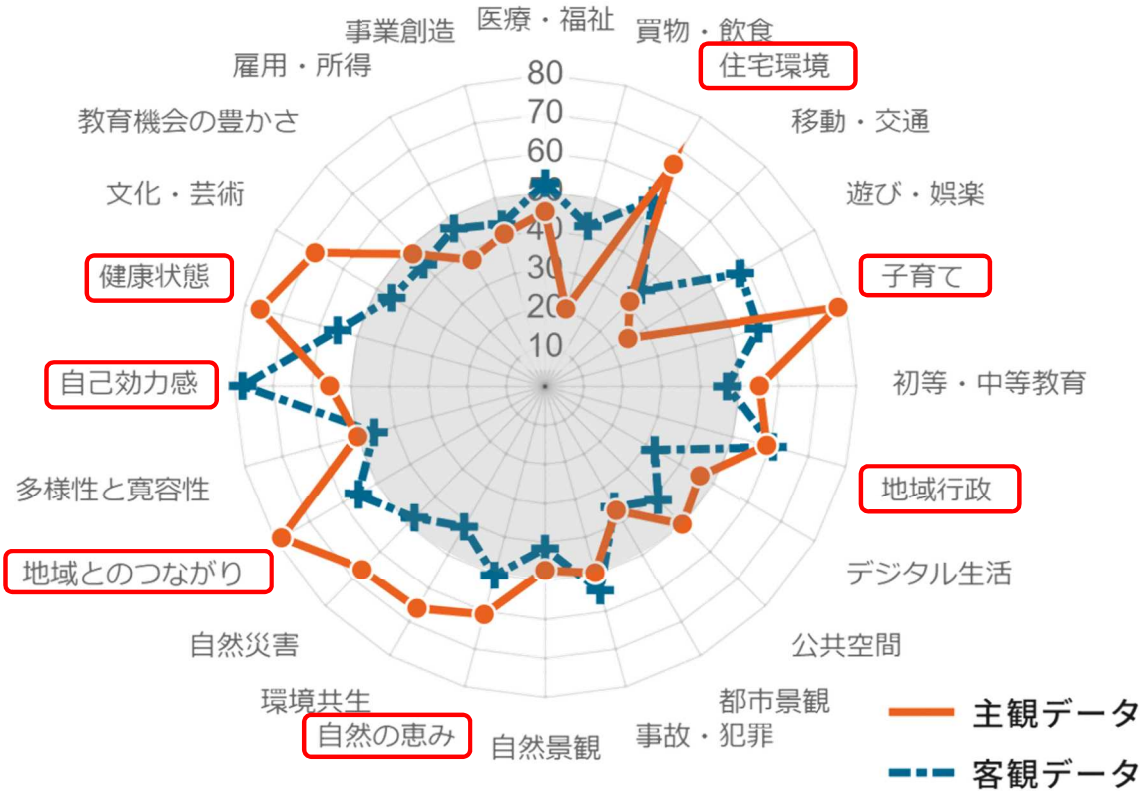
- ・強み : 主観・客観50以上 ⇒ 強み
- ・弱み : 主観・客観50未満 ⇒ 弱み
- ・ギャップ : 主観・客観ギャップが±20以上 (強み、弱み除く)

【出典】 2024年度版(令和6年度版) Well-Being 個別調査

(2) 聖籠町の地域幸福度(Well-Being)指標 【分析】

主観・客観50以上⇒強み特定

カテゴリー別



カテゴリー	主観	客観	強み
住宅環境	65.9	55.2	強み
子育て	77.9	56.7	強み
地域行政	58.9	60.6	強み
自然の恵み	60.8	50.3	強み
地域とのつながり	78.3	55.4	強み
自己効力感	55.4	77.8	強み
健康状態	75.9	55.2	強み

概況

【住宅環境】

主観：住宅環境、住居費用への評価が高い
客観：住宅価格が適正

【子育て】

主観：子育て支援、環境への評価が極めて高い
客観：自治体の教育費割合、出生率高い

【地域行政】

主観：町行政への評価が高い
客観：体育施設利用者数多い、財政指数良好

【自然の恵み】

主観：自然を感じる、空気・水への評価が高い
客観：食料・水供給のポテンシャル高い
NO2吸収量等の項目が低い

【地域とのつながり】

主観：町内の人とのつながり、地域への愛着への評価が極めて高い

客観：拡大家族世帯が多い、単身高齢世帯少ない

【自己効力感】

主観：自分のことを好ましく感じるへの評価が高い
客観：町長選、町議選の投票率高い

【健康状態】

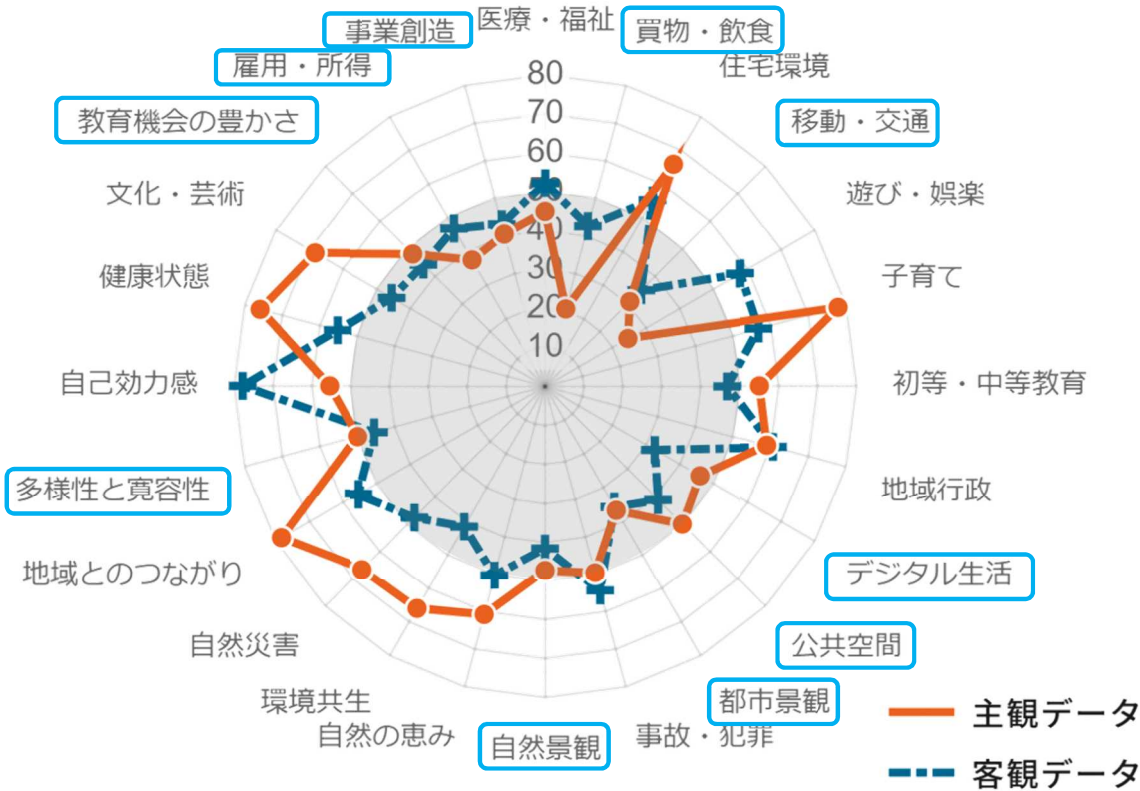
主観：身体的、精神的に健康への評価が極めて高い
客観：女性の健康寿命が全国平均よりも長い

【出典】 2024年度版(令和6年度版) Well-Being 個別調査

(2) 聖籠町の地域幸福度(Well-Being)指標 【分析】

主観・客観50以下⇒弱み特定

カテゴリー別



カテゴリー	主観	客観	類型
買物・飲食	20.6	42.6	弱み
移動・交通	30.8	34.9	弱み
デジタル生活	46.0	32.6	弱み
公共空間	49.9	41.1	弱み
都市景観	36.6	35.6	弱み

カテゴリー	主観	客観	類型
自然景観	47.3	41.6	弱み
多様性と寛容性	49.9	45.5	弱み
教育機会の豊かさ	48.1	44.2	弱み
雇用・所得	37.5	46.8	弱み
事業創造	40.5	43.1	弱み

概況

【買物・飲食】

主観：買い物、飲食施設の状況について評価が極めて低い
客観：商業施設、飲食店が少ない

【移動・交通】

主観：公共交通での移動について評価が極めて低い
客観：駅・バス停が少ない（自家用車の使用率高い）

【デジタル生活】

主観：行政サービス、日常生活のデジタル化について評価がやや低い
客観：行政によるデジタル利活用進んでいない

【公共空間】

主観：街中や公園等で歩ける場所について評価が低い
客観：公園は多いが徒歩圏にない、歩道設置率が低い

【都市景観、自然景観】

主観、客観ともに低調

【多様性と寛容性】

主観：設問ごとに差はあるが、平均的な水準
客観：役場職員の障がい者割合、多様性政策指数が低調

【教育機会の豊かさ】

主観：学ぶ機会について評価がやや低い
客観：大卒、院卒者の割合低い

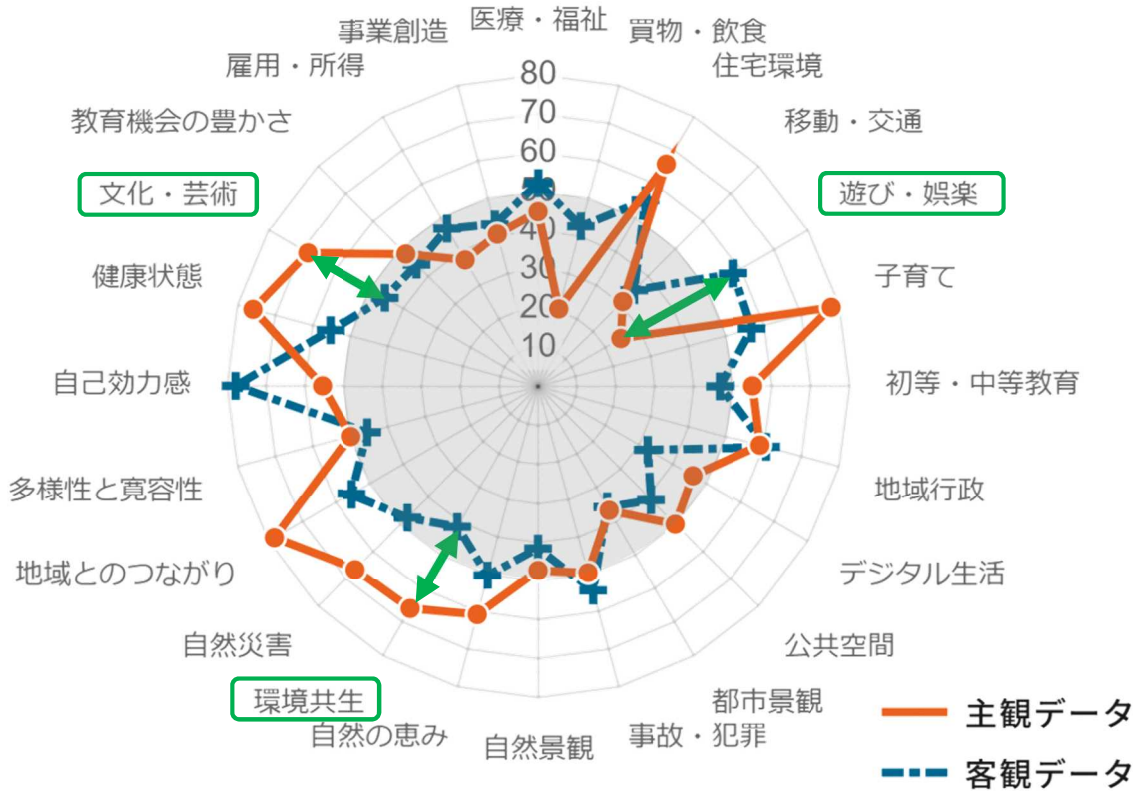
【雇用・所得、事業創造】

主観：求職・収入、挑戦・成長についての評価が低い
※設問の書き方「暮らしている地域では」も影響
客観：失業率高い

(2) 聖籠町の地域幸福度(Well-Being)指標 【分析】

主観・客観のギャップ大 ※強み・弱み除く

カテゴリー別



カテゴリー	主観	客観	類型
遊び・娯楽	24.6	57.8	ギャップ
環境共生	66.0	41.5	ギャップ
文化・芸術	68.3	45.5	ギャップ

概況

【遊び・娯楽】

主観：娯楽施設の有無について極めて評価低い
 客観：指標の根拠となる娯楽業事業所数にスポーツ施設が含まれることなどにより、高めの数値となった

【環境共生】

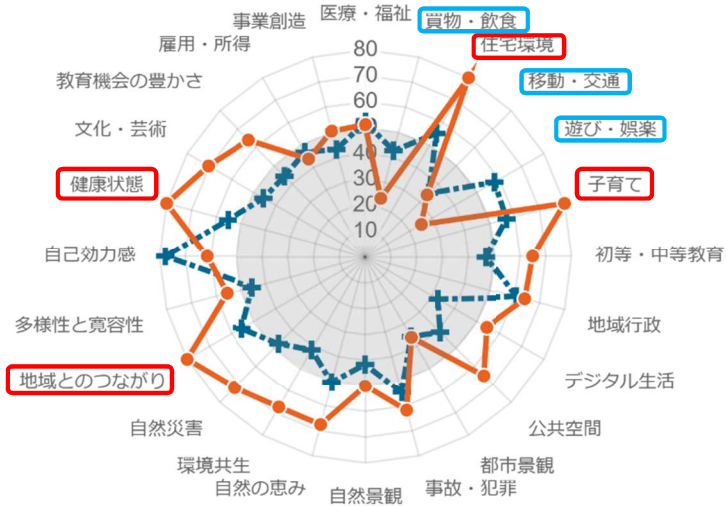
主観：リサイクル等環境への取組について評価高い
 客観：人口当たりCO2排出量が多い
 →東港工業地帯による影響大きい

【文化・芸術】

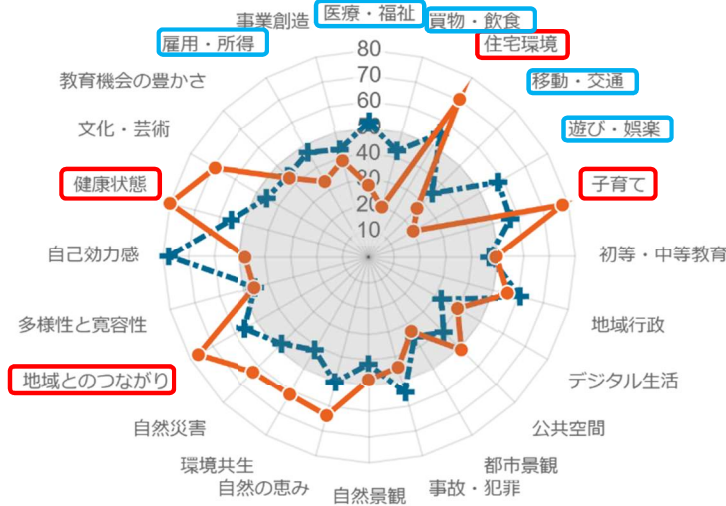
主観：将来のため良い環境や文化を残したいの評価高い
 客観：国宝・重要文化財（建築物）数が少ない
 ※人口当たり比較でないことも影響

(2) 聖籠町の地域幸福度(Well-Being)指標 【分析】

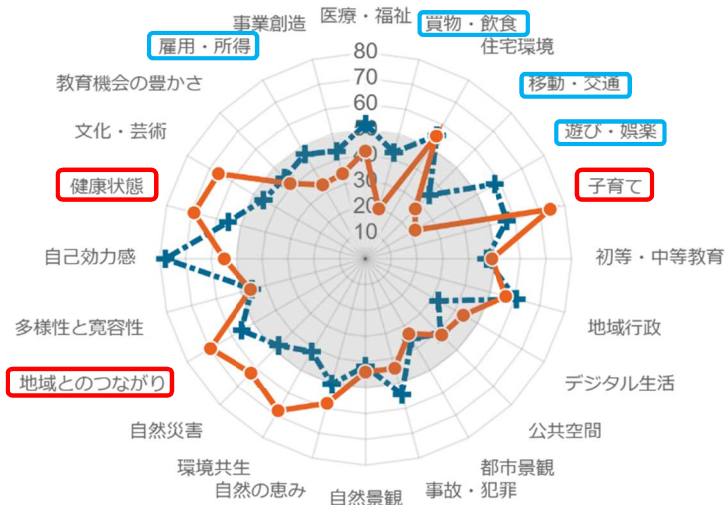
【10~20代】



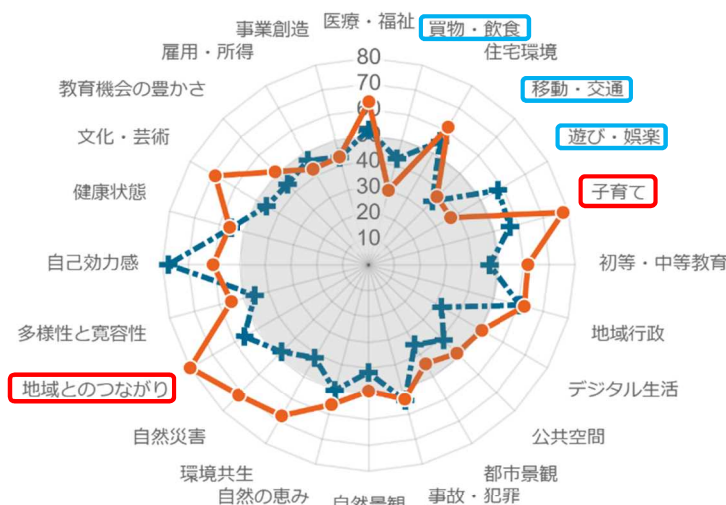
【30~40代】



【50~60代】



【70代~】



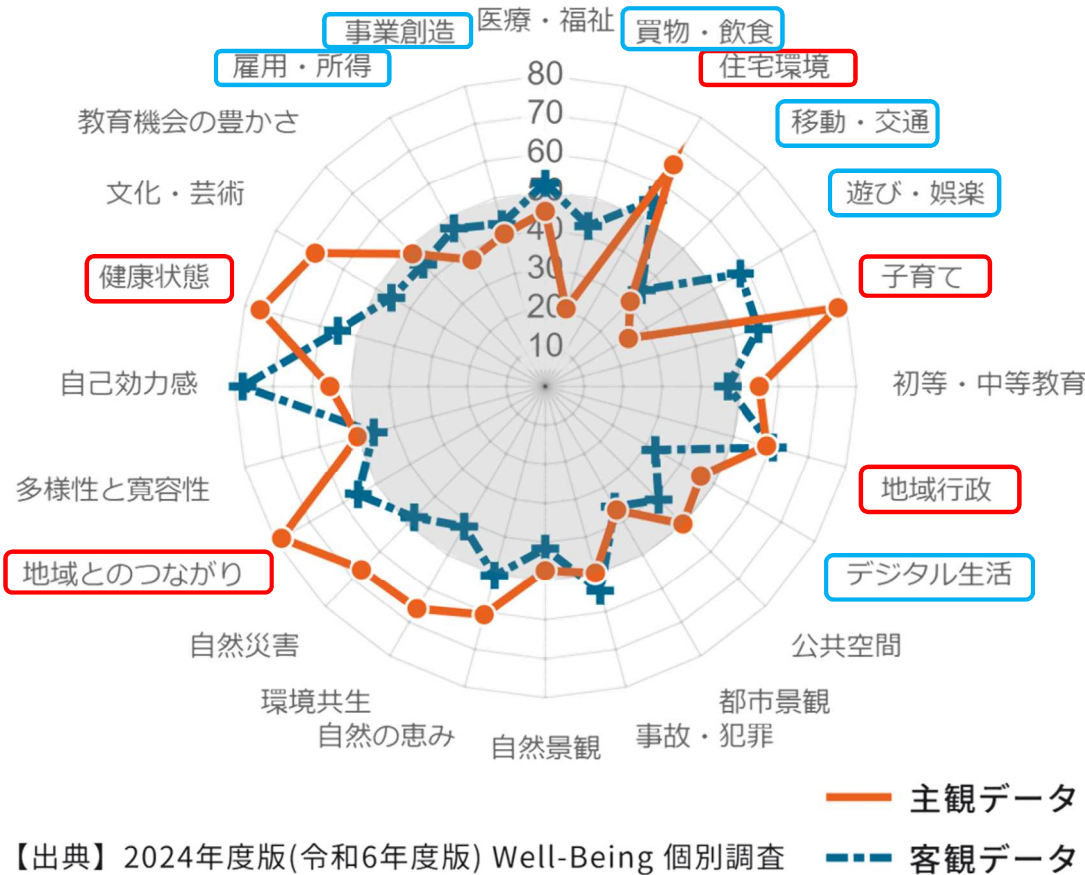
概況

- ✓ 客観指標は各年代共通
- ✓ 以下においては、主観指標の年代別の特徴を列挙
 - 全年代で「子育て」「地域とのつながり」高い
 - 10~40代の「住宅環境」高い
 - 10~60代(70代~を除く)の「健康状態」高い
 - 全年代で「買物・飲食」「移動・交通」「遊び・娯楽」低い
 - 30~40代の「医療・福祉」低い
 - 30~60代の「雇用・所得」低い

— 主観データ
- - - 客観データ

(2) 聖籠町の地域幸福度(Well-Being)指標 【まとめ】

カテゴリー別



※前述の分析において特徴的な項目を抜粋している。

※指標の数値が平均値に近い、政策的な検討の優先度が低い等の理由から「強み」、「弱み」としなかった項目は以下のとおり

- 主観・客観50以上 : 自然の恵み、自己効力感
- 主観・客観50以下 : 公共空間、都市景観、自然景観、多様性と寛容性、教育機会の豊かさ
- ギャップ大(±20以上) : 環境共生、文化・芸術

強み

- ✓ 「住宅環境」「子育て」に対する満足度が高く、それにより子育て世帯が一定数流入している。
- ✓ 「地域行政」に対する満足度は高く、行政運営・公共施設運営はある程度良好な状態である。
- ✓ 「地域とのつながり」の主観指標は極めて良好で、地域において良好な人間関係が築かれている。
- ✓ 「健康状態」に対する満足度が高く、心身ともに健康であると感じている方が多いことが、幸福度の高さに一定程度寄与していると考えられる。

弱み

- ✓ 「買物・飲食」「遊び・娯楽」「雇用・所得」「事業創造」に対する満足度が低い。
⇒新潟市、新発田市へ通勤・通学する方が多く、生活エリアが町内で完結していない。(=町の特徴)
- ✓ 「移動・交通」に対する満足度が低く、生活のための移動手段として自家用車が必要不可欠である。(自動車を運転できない住民への支援の必要性)
- ✓ 「デジタル生活」の客観指標が低く、行政によるデジタル利活用が進んでいない。

【参考】主観指標の構成因子一覧

カテゴリ		偏差値
医療・福祉	医療機関が充実	33.5
	介護福祉サービス良	56.4
買物・飲食	買い物に不便がない	29.1
	飲食を楽しめる	20.0
住宅環境	自宅に心地のいい居場所	76.7
	【逆】騒音に悩まされている	63.3
	適度な費用で住居を確保	57.4
移動・交通	公共交通の移動良	30.8
遊び・娯楽	娯楽施設がある	24.6
子育て	子育て支援が手厚い	80.0
	子どもがいきいきと暮らせる	75.2
初等・中等教育	小中高校が整っている	65.1
	通学しやすい学校	45.2
地域行政	行政は真剣に考えている	64.4
	公共施設は使い勝手良	52.8
デジタル生活	行政サービスのデジタル化良	47.2
	仕事や日常でデジタル	44.3
公共空間	雰囲気自分にとって心地よい	58.3
	街中や公園等で歩ける場所	41.7
都市景観	自慢できる都市景観がある	36.6
自然景観	自慢できる自然景観がある	47.3
自然の恵み	身近に自然を感じる	61.7
	空気や水はきれい	59.9

カテゴリ		偏差値
環境共生	リサイクル等環境への取組良	66.0
自然災害	防災対策がしっかり	66.6
事故・犯罪	防犯対策・治安が良	50.0
	歩道や信号が整備	49.1
地域とのつながり	同じ町内の人を信頼	77.2
	コミュニティ活動盛ん	67.1
	相談できる人が身近	77.5
	町内の人を手助け	80.0
多様性と寛容性	町内に対して愛着	76.8
	町内どんな人の意見も受入	60.1
	見知らぬ他者も信頼	40.1
	人が自分をどう思うか気に	47.1
自己効力感	女性が活躍しやすい	52.3
	若い人が活躍しやすい	51.8
健康状態	自分のこと好ましく	55.4
文化・芸術	身体的に健康	76.8
	精神的に健康	74.9
教育機会の豊かさ	文化等が盛んで誇らしい	46.6
	将来のため良い文化等を残したい	80.0
雇用・所得	学べる機会	48.1
事業創造	やりたい仕事	38.1
	収入機会	36.9
	挑戦・成長	40.5

【出典】2024年度版(令和6年度版) Well-Being 個別調査

【参考】客観指標の構成因子一覧

カテゴリ		偏差値	カテゴリ		偏差値	カテゴリ		偏差値	
医療・福祉	医療施設徒歩圏人口カバー率	20.0	都市景観	都市景観指数	35.6	地域とのつながり	人口あたり自殺者数	57.6	
	医療施設徒歩圏平均人口密度	60.5	自然景観	自然景観指数	41.6		拡大家族世帯割合	80.0	
	人口あたり国民健康保険者医療費	39.8	自然の恵み	食料供給ポテンシャル	71.2		既婚者割合	53.5	
	人口あたり後期高齢医療費	62.5		水供給ポテンシャル	66.7		高齢単身世帯割合	70.6	
	特定健診実施率	77.3		木材供給ポテンシャル	45.7		居住期間が20年以上の人口割合	68.0	
	福祉施設徒歩圏人口カバー率	35.7		炭素吸収量	41.0		祭りの数	44.0	
	福祉施設徒歩圏平均人口密度	59.9		蒸発散量	50.7		人口あたり政治団体等の数	50.3	
	福祉施設徒歩圏平均人口密度	59.9		地下水涵養量	57.5		人口あたり宗教の事業所数	46.1	
	人口あたり児童福祉施設数	50.0		土壌流出防止量	43.1		人口あたりNP0の数	47.8	
	人口あたり認知症サポーター・サポーター数	64.0		窒素除去量	42.0		人口あたり都市再生推進法人・UDC数	47.5	
買物・飲食	商業施設徒歩圏人口カバー率	20.0		リン酸除去量	42.1	関係人口活動指数	44.4		
	商業施設徒歩圏平均人口密度	62.5		NO2吸収量	38.0	多様性と寛容性	議会の女性議員割合	69.3	
	可住地面積あたり飲食店数	45.3	SO2吸収量	40.3	自治体における管理職の女性割合		45.4		
	人口あたり飲食店数	42.4	洪水調整量	44.0	自治体職員における障害者の割合		20.0		
住宅環境	平均価格（住宅地）	55.2	表層崩壊への安全性	46.2	人口あたり外国人人口		50.1		
移動・交通	駅・バス停留所徒歩圏人口カバー率	21.7	緑地へのアクセス度	66.0	多様性政策指数	42.6			
	駅・バス停徒歩圏人口密度	60.0	水域へのアクセス度	48.1	自己効力感	首長選挙の投票率	75.5		
	人口あたり小型車走行キロ	20.0	オートキャンプ場への立地	62.0		市区町村議会選挙の投票率	80.0		
	通勤通学に自家用車等を用いない割合	37.8	環境共生	NOx濃度		61.6	健康状態	健康寿命（男性）	43.4
遊び・娯楽	人口あたり娯楽業事業所数	57.8		ゴミのリサイクル率		37.7		健康寿命（女性）	66.9
	可住地面積あたり幼稚園数	41.2		人口あたりCO2排出量	20.6	文化・芸術		国宝・重要文化財（建造物）数	46.9
	一施設当たり幼稚園児数	50.9		人口あたり再生可能エネルギー発電容量	52.1			日本遺産数	44.1
	人口あたり待機児童数	51.9	環境政策指数	35.2	教育機会の豊かさ		大卒・院卒者の割合	25.6	
歳出総額の教育費割合	70.8	自然災害	外水氾濫	48.9			可住地面積あたり大学・短期大学数	46.4	
合計特殊出生率	68.9		高潮	47.4		可住地面積あたり私立・国立中高一貫校数	47.1		
初等・中等教育	可住地面積あたり小学校数		40.5	土砂災害		59.9	人口あたり生涯学習講座数	42.0	
	可住地面積あたり中学校数		41.1	地震動	44.6	人口あたり生涯学習講座受講者数	45.1		
	可住地面積あたり高等学校数	43.1	津波	45.5	人口あたり青少年教育施設利用者数	57.2			
	一施設当たり小学生数	58.9	ハード対策	51.2	人口あたり女性教育施設利用者数	46.1			
地域行政	一施設当たり中学生数	50.7	避難・救助	62.6	雇用・所得	完全失業率	29.3		
	人口あたり体育施設利用者数	80.0	要配慮者支援	34.8		若年層完全失業率	41.7		
	人口あたり図書館常出者数	57.7	防災教育	42.2		正規雇用者比率	62.7		
	人口あたり図書館常出者数	57.7	防災まちづくり	39.4		高齢者有業率	53.1		
デジタル生活	人口あたり博物館入館者数	47.5	情報・デジタル防災	46.4	市区町村内で従業している者の割合	45.3			
	財政指数	57.1	事故・犯罪	人口あたり交通事故件数	55.6	創業比率	53.6		
	自治体DX指数	28.6		人口あたり刑法犯認知件数	53.2	納税者あたり課税対象所得	41.6		
	デジタル政策指数	30.2		事業創造	クリエティブ産業事業所構成比	37.4	新規設立法人の割合	41.3	
デジタル生活指数	39.1	従業者数あたりコワーキングスペース数			47.8	大学発ベンチャー企業数	46.0		
公共空間	公園緑地徒歩圏人口カバー率	25.8							
	人口あたり公園面積	58.4							
	歩道設置率	42.2							
	ウォーカブル指数	38.1							

【出典】2024年度版(令和6年度版) Well-Being 個別調査

市区町村版 暮らしやすさの客観指標で「指数」を構成するKPI内訳

- 「〇〇指数」は、構成する項目（施策・施設など）が「有り」の場合に1点、「無し」は0点とし、全項目の合計を算出。
- 自治体DX指数は、構成するカテゴリー（「自治体DXの推進体制等」、「行政サービスの向上・高度化」等）ごとの点数の平均値の合計。

■ 地域財政指数

- ・ 財政力指数
- ・ 経常収支比率
- ・ 実質公債費比率
- ・ 将来負担比率

■ 自治体DX指数

- ・ 自治体DXの推進体制等
 - ・ CIO任命の有無（及び外部デジタル人材任用の有無）
 - ・ CIO補佐官任命の有無（及び外部デジタル人材任用の有無）
 - ・ DXを推進するための全体方針策定の有無
 - ・ DXを推進するための全庁的・横断的な推進体制構築の有無
 - ・ DX推進専任部署設置の有無
 - ・ DXを推進するための外部デジタル人材任用の有無
 - ・ DX・情報化を推進するために行っている職員の育成の取組の有無
- ・ 行政サービスの向上・高度化
 - ・ 申請・届出等手続のオンライン化計画・オンライン利用促進計画策定の有無
 - ・ 申請・届出等手続をオンライン化するための通則条例制定の有無
 - ・ e-文書条例制定の有無
 - ・ 申請・届出等手続をオンライン化するためのシステム導入の有無
 - ・ コンビニにおける証明書等の交付等の有無

- ・ 市民視点の指標の策定の有無
- ・ 指標に基づいた市民満足度測定の有無
- ・ 各システムの電子決裁機能の有無
- ・ 災害時の被災者情報管理業務システム整備の有無
- ・ 統合型GIS導入の有無
- ・ 情報セキュリティ対策の実施状況
 - ・ CISO任命の有無（及び外部デジタル人材任用の有無）
 - ・ 緊急時対応計画の策定の有無
 - ・ 情報システムに関する業務継続計画策定の有無
- ・ デジタルデバйд対策
 - ・ デジタルデバйд対策実施の有無

■ デジタル政策指数

- ・ 国土交通省Plateauの対象都市
- ・ 地方版IoT推進ラボの有無
- ・ 自治体によるオープンデータの有無
- ・ ローカル5G開発実証事業の採択の有無
- ・ スマートシティ合同審査の結果
- ・ 令和4年度デジ田交付金（type2/3）への採択
- ・ マイナンバーカード普及率
- ・ 国勢調査ネット回答率
- ・ 共創モデル実証プロジェクト
- ・ Digi田甲子園採択自治体
- ・ デジタル田園都市国家構想採択自治体

■ デジタル生活指数

- ・ Code forの団体の有無
- ・ ファブラボの有無
- ・ CoderDojoの有無
- ・ 大学のICT関連学部の有無
- ・ 高等専門学校の有無
- ・ 10万人あたり通信キャリア店舗数

■ ウォークアブル指数

- ・ ウォークアブル推進都市
- ・ （ウォークアブル推進都市のうち）滞在快適性等向上区域を設定している自治体
- ・ 「地方版自転車活用推進計画」の有無

■ 都市景観指数

- ・ 「都市景観大賞」受賞の市区町村
- ・ 景観条例の有無
- ・ 景観重要建造物の有無
- ・ 景観協定の有無

■ 自然景観指数

- ・ 国立・国定公園の有無
- ・ 「美しい日本のむら景観百選一覧」
- ・ 景観重要樹木の有無
- ・ 重要文化的景観

市区町村版 暮らしやすさの客観指標で「指数」を構成するKPI内訳

- 「〇〇指数」は、構成する項目（施策・施設など）が「有り」の場合に1点、「無し」は0点とし、全項目の合計を算出。
- 自治体DX指数は、構成するカテゴリー（「自治体DXの推進体制等」、「行政サービスの向上・高度化」等）ごとの点数の平均値の合計。

■ 環境政策指数

- SDGs未来都市
- 2050年ゼロカーボンシティ
- 気候変動イニシアティブへの参加
- 「地域循環共生圏実践地域」活動団体
- 脱炭素先行地域
- ゼロカーボンパーク

■ 多様性政策指数

- パートナーシップ宣誓制度の有無
- 性の多様性に関する条例の有無
- 障害差別解消に関する条例の有無
- 子どもに関する条例の有無
- バリアフリー基本構想の有無
- 男女共同参画条例・ジェンダー平等条例

■ 関係人口創出活動指数

- 地域への移住・関係人口創出プロジェクトの数
- 地域への移住・関係人口創出プロジェクトの発信可能者数
- 地域への移住・関係人口創出プロジェクトの関心度